

(電子メール施行)  
農技第1377号  
令和3年8月20日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

令和3年度病害虫発生予察注意報 第3号を發表します。

令和3年度病害虫発生予察防除情報第4号(令和3年8月17日付)においてイネいもち病(穂いもち)の防除の徹底を呼びかけているところですが、停滞する前線の影響で曇雨天と低温が続いています。これから出穂期を迎える普通期水稻において、穂いもちの被害が懸念されます。圃場<sup>ほじょう</sup>でのいもち病の発生に十分注意し、防除対策を徹底するようご指導願います。

### 令和3年度病害虫発生予察注意報 第3号

#### イネいもち病(穂いもち)の発生状況と防除対策について

- |        |                 |
|--------|-----------------|
| 1 対象作物 | 水稻(普通期栽培)       |
| 2 病害虫名 | いもち病(穂いもち)      |
| 3 発生地域 | 県南部地域(県東部及び県西部) |
| 4 発生量  | 多い              |
| 5 発生時期 | 8月下旬～9月中旬       |

#### 6 注意報発表の根拠

- (1) 8月上旬の現地調査での本病の発生圃場率は50.0%(過去5カ年平均16.0%)と例年に比べて多い発生となっている。
- (2) 8月18日に普通期水稻を対象に行った緊急巡回調査の結果、葉いもちの発生圃場率は64.6%(県東部37.1%、県西部92.1%)と増加している。
- (3) 発生の多い一部の圃場では、上位葉に本病の病斑が見られたり(写真1)、さらにズリ込み症状が確認されるなど病勢が進展している。今後、本病が上位葉で多発すると穂への感染が懸念される(写真2)。
- (4) 8月19日発表の向こう1カ月の気象予報によると、近畿地方の気温・降水量は平年並、日照時間はやや少ないと予想されており、いもち病の発病に適している。

#### 7 防除対策について

- (1) 圃場をよく観察し、葉いもちの発生状況を確認する。特に山間や河川沿いなどの常発地での発生に留意する。

- (2) 本病の穂への感染を防ぐため、穂ばらみ期の薬剤防除を必ず行う。
- (3) 本病の発生が多い圃場（特に上位葉に病斑が見られる圃場）や穂ばらみ期の薬剤防除後も葉に新たな病斑形成（病勢の進展）が見られる場合には、穂揃い期に穂いもちの追加防除を行う。
- (4) 薬剤を散布する際は、使用時期（収穫前日数）や使用回数等に注意するとともに、周辺作物への飛散（ドリフト）に十分気をつける。
- (5) 曇雨天が続く場合、薬剤散布は降雨の合間を見て実施すること。その際は、葉が乾いた状態で薬剤散布を行い、薬剤が乾くまで降雨がないよう、防除のタイミングに留意する。
- (6) 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を遵守する。

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>



写真1 上位葉に発生した葉いもち



写真2 穂いもちの症状（穂首いもち）

\*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページ (<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>) に掲載しています。

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222